

ポスターセッション (P-上水-1 ~ P-上水-5, P-毒性-1 ~ P-毒性-6, P-その他-1 ~ P-その他-4)

上水分野 5 件, 毒性分野 6 件, その他 4 件の計 15 件のポスター発表について報告を行う。

上水分野の発表は多岐にわたっており, オゾン-MF-GAC による MF フラックスと処理水質の向上(上水-1), 磁気凝集によるクリプトの除去(上水-2), 1,4-ジオキサンの活性炭吸着(上水-3), 有機酸による殺菌(上水-4), ELISA 法による界面活性剤の調査(上水-5)があった。他の分野で使用されているプロセスを上水へと応用する研究(上水-2,4)は新規性があり今後の発展が期待される。

毒性分野の発表は, 内分泌かく乱物質に関する発表が 3 件(毒性-1,2,3)あり, 他は生物濃縮性の評価(毒性-4), 農薬とフェノール酸に対するバイオアッセイ(毒性-5,6)であった。内分泌かく乱物質の中では人畜排泄物由来の女性ホルモンが生物へ与える影響との関連が大きいと言われているが, (毒性-1)では雄ボラ血中の高濃度ピテロゲニン検出と下水処理場水中のエストロゲンとの関連性が示唆された。一方, 都市内河川中のエストロゲン活性と糞便性コレステロールとの相関は, 必ずしも全て大きいとは言えなかった(毒性-2)。内分泌かく乱物質と糞便性指標の排水処理中や環境水中における分解等についての検討が期待される。(毒性-4)においては, Kow が大きい際に Kow から生物濃縮係数(BCF)を推定すると実際よりも過大評価されることを指摘し, Kow 測定よりも実施が容易な脂肪溶解度による BCF 推定の可能性を検討している。

その他部門においては, 市民による環境監視・環境教育に関するもの(その他-1,2), シンポジウム開催報告(その他-3), 湿地型屋上緑化(その他-4)という発表があった。(その他-1)においては, バイオアッセイを用いた市民参加型の環境モニタリング手法について報告をしている。調査結果, 特にバイオアッセイ結果を市民がどのように解釈したかについての報告を期待したい。

ポスター発表の全体的な感想としては, 読みやすいポスターと読みにくいポスターの差が大きかったことを挙げたい。読みにくいポスターは, 発表の順序が分かりにくいもの(縦に読み進むべきか横に読み進むべきか分からないものが意外に多かった), 研究の目的と結論が一致していないもの, 文字数が多いあるいは文字が小さすぎるもの, などがあった。逆に読みやすいポスターは, 結論や要約が見やすい位置に掲示してあるもの, 図表が簡潔なもの, 文字が大きいもの, などであった。発表内容を伝える手段としては講演集の原稿もあることから, ポスターではあえて情報量を減らし簡潔に表現することも, 活発な議論を行うために有効な方法の 1 つではないかと考えられた。

(北海道大学大学院工学研究科 大野 浩一)